



「第8回赤ひげ大賞」受賞者の皆さま、ならびにご家族の皆さま、誠におめでとうございます。

平成24年に創設された「赤ひげ大賞」は、今年で8回目を迎えました。今回は、新たに「赤ひげ功労賞」を設け、合計18名の先生方を「赤ひげ功労賞」に、そして、5名の先生方を「赤ひげ大賞」に決定いたしました。いずれの受賞者も、地域社会の信頼を得ながら、住民の健康な生活を支えてこられた方ばかりで、まさに「現代の赤ひげ先生」たちです。

今回の受賞者の中には、これまでで最高齢となる98歳の「赤ひげ先生」、古江増蔵先生もいらっしゃいます。先生は98歳になったいまも介護老人保健施設で従事され、施設内を電動カートで巡回されています。「人生100歳時代」が叫ばれる中で、まさに現役で活躍し続けている医師です。

産経新聞社でも、誰もが100歳まで生きることが当たり前になる時代に備えて、3年前に「100歳時代プロジェクト」をスタートさせ、人生設計に関するシンポジウムやフォーラムの開催など、さまざまなプロジェクトに取り組んでおります。

多くの方が100歳まで生きられる時代を迎え、一人ひとりの人生設計も、社会の仕組みも、大きな変化を求められています。年齢を重ねてもいかに健康に、毎日を充実させて生きるか。われわれも様々な提言を行ってまいりたいと思いますが、申し上げるまでもなく、この健康な100歳時代を支えるのは、地域に深く根差した医療であり、その医療活動に携わる医師の皆さま、医療関係者の皆さまであります。今後とも皆さまのご尽力を心よりお願いしたいと思います。

私ども産経新聞社は、報道機関として、日本の医療の充実、さらには国民の長寿と健康的な生活の一助となるべく、これまで以上に邁進していく所存でございます。今後とも、皆さま方の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、特別協賛をいただいております太陽生命保険株式会社さまをはじめ、ご協力、ご尽力いただきました方々に、心より御礼申し上げます。受賞者の方々、誠におめでとうございます。